男声合唱団イル・カンパニーレ
混声合唱団川越牧声会
スプリング・コンサート

加藤良一　令和5年(2023)4月14日

ようやくコロナ禍が下火になった4月9日(日)、男声合唱団イル・カンパニーレと混声合唱団牧声会のジョイントコンサートが川越市やまぶき会館(513席)で開かれました。両団それぞれ2ステージと合同演奏という5ステ構成でした。イルカンは男声合唱プロジェクトYARO会の構成メンバーであり、年間通していろいろと交流を重ねています。

入場は無料、E-チケットの「teket」で申し込み、QRコードが印刷された用紙か、あるいはスマホでPDFチケットを提示し、入口でQRコードを読み取ってもらい入場する仕組みとなっていました。まだコロナ禍が終ったわけではないので、適切な対応でした。

どのステージもようやくマスクを外して歌える喜びに満ち溢れていて、聴衆もマスク着用ではあるものの、十分楽しめるコンサートでした。

チラシやプログラムに使われている「時の鐘」は、寛永11年、川越城主酒井忠勝が建てたもので、江戸時代初期から「時」を告げてきた川越のシンボル的存在です。

「残したい"日本の音風景100選"」にも選ばれている名所です。

プログラム

1st stage　男声合唱団イル・カンパニーレ
　清水脩『月光とピエロ』

2nd stage　混声合唱団川越牧声会
　市原俊明『目をそらさずに』

3rd stage　イル・カンパニーレ
　アラカルト・木下牧子「物語」／アイルランド民謡「Irish Blessing」他

4th stage　川越牧声会
　アラカルト・津田元「うたをうたうのはわすれても」／山下祐加「朝に」他

5th stage　合同演奏
　牧野統「甲斐より」／中島みゆき「時代」

そして、イル・カンパニーレ（イルカン）という名前もこの「鐘」に因んで名づけられました。

第1ステージでイルカンが演奏した男声合唱組曲『月光とピエロ』は、男声合唱プロジェクトYARO会第2回ジョイントコンサート（2005年）の合同演奏でも取り上げた名曲です。指揮者牧野美紀子さんは楽曲紹介でつぎのように語っています。

この曲と出会ったのは私が小学生？ 中学生？の頃。埼玉県立川越高校音楽部の定期演奏会でした。残念ながら今はもうない川高の重厚な行動での演奏会で、なんて素敵な曲か!! また、川高のお兄さんたちがなんて美しい声！ また立派なお姿と感動しました。指揮は私の父、牧野統（おさむ）。今日、この素晴らしさをお伝えできますように、心から願いながら、振ります。

男声合唱団イル・カンパニーレ

第2ステージに登場した川越牧声会（指揮國弘雅也）は、イルカンと同じく川越を本拠地として活動する混声合唱団です。1953年県立川越高校の音楽部顧問であった牧野統（おさむ）先生により川越高校OBと川越第一小学校の教員たちをメンバーとして活動を開始しました。

団名の「牧声会」は団員投票にて選ばれ、師の「牧」とも「牧場の声」ともいわれているようです。演奏曲は、組曲『目をそらさずに』、2年前に演奏するはずだっただけに、メッセージ性の強い作品に思いを込めて歌ったことでしょう。因みに牧声会代表は「団長」ではなく「会長」と呼びます。

混声合唱団牧声会

第3ステージは、イルカンのアラカルト曲集でした。若手のホープ細田貴大さんの指揮で“Day Dream Believer”と“Irish Blessing”が演奏され、続いて牧野美紀子さんの指揮で、木下牧子「物語」、信長貴富「きみ歌えよ」、同じく「鎮魂歌へのリクエスト」の3曲が演奏されました。

“Irish Blessing”はアメリカのバーバーショップ・ハーモニーとして名高い曲ですが、これは本場アメリカで長年にわたって歌ってきたバスの大河内一男さんがいるから選曲したにちがいありません。大河内さんのあだ名は「でんちゃん」です。あだ名の由来は、戦前の映画界を代表する時代劇スターの大河内傳次郎(でんじろう)が想起されるところからついたものでしょう。

第4ステージは、牧声会のアラカルトステージ、Jaakko Mäntyjärvi“Pulchra es”、津田元「うたをうたうのはわすれても」、三善晃「夕暮」、山下祐加「朝に」、信長貴富「ボクはウタ」を國弘雅也さんの指揮で演奏しました。

イルカン＋牧声会合同演奏

最後の合同ステージは、中島みゆき「時代」を國弘雅也さんが、牧野統（おさむ）「甲斐より」を作曲者のご令嬢牧野美紀子さんがそれぞれ指揮をされました。「甲斐より」は、牧野統先生がまだ音楽学校在学中に、山梨県出身の学友が学徒出陣することになり、別れの記念にと一夜で作り上げたという曲で、牧声会の大切な愛唱歌として歌い継いでいるといいます。

混声合唱曲：牧野統作品 － YouTube （指揮小高秀一、演奏川越牧声会：後半10分～）

第2と3ステージのあいだの休憩、つまり第2.5ステージには、イルカン名物の横山談らく師匠※による「幕間コント」がありました。談らく師匠は合唱界には珍しい落語立川流門下の噺家です。また、コント作家でもあります。この二つの団には芸達者な面々が揃っていて、いつも聴衆を楽しませてくれます。

左から　談らく師匠、岡本牧声会会長、宇佐美イルカン団長、牧声会女声陣

楽曲紹介を掲載した PDF を Google Drive 上に公開しています。あわせてご覧ください。

※「談らく師匠の出前寄席」👇
http://rkato.sakura.ne.jp/kotoba/krl_danrakusisho no demaeyose.pdf

♠楽曲解説

プログラムはA4三つ折り、コンパクトでシンプルな仕上げ、曲目の解説は別途Google Driveにアップされていました。QRコードを読み取るとPDFを開くことができます。会場へ出抱える前によく読んでコンサートを存分に楽しめるように気配りがされていました。ただし、ここへアクセスできない方にはちょっ

と不便かも知れませんが…。また、アンケートもQRコードから入力する形になっており、極力紙媒体を省く工夫をしていました。

男声合唱団イル・カンパニーレと混声合唱団牧声会は、以前小髙秀一先生（元埼玉県合唱連盟理事長）が指揮をされていました。小髙先生は、2003年の男声合唱プロジェクトYARO会発足時から指揮者として指導していただきました。両団体のますますの発展を祈念いたします。

写真提供：平野桂介さん（男声合唱団イル・カンパニーレ）

〔参考資料〕

「男声合唱プロジェクトYARO会」 www.ric.hi-ho.ne.jp/neo-rkato/yaro/yarokai_top.html

「小高秀一先生ご逝去」 www.ric.hi-ho.ne.jp/neo-rkato/yaro/2013yarokai_wa_ima.html

Back
音楽・合唱コーナーTOPへ

Home
HOME PAGEへ